

# 平成22年度 学校評価書

# 山形県立山添高等学校

学校教育目標	<p>『ゆたかなこころの育成(德育)』                  ※勤労と責任を重んじ、忍耐と克己心に富み、情操豊かで思いやりがあり、互いに協力し合う人間の育成に努める。</p> <p>『自立のための知性の育成(知育)』                  ※自らの目標を定め、その目標の実現に向かって主体的かつ積極的に学習活動に取り組み、確かな知識・技術を身につける とともに、生きる力と知性の育成に努める。</p> <p>『たくましい体の育成(体育)』                  ※自他のいのちを大切に、健康と安全に留意し、体力の増強に努め、心身ともに調和の取れたたくましい人間の育成に努める。</p>
--------	--

重点目標	<p>1 基礎基本を大切に、個性を伸ばし、自ら学ぶ意欲を育てるために、分かる授業、楽しい授業、考える力を養う授業の研究と実践に努める。</p> <p>2 適切な進路目標を設定し、実現のために自主的・計画的に取り組ませる。</p> <p>3 礼儀を重んじ、他を思いやる心を育む教育を推進する。</p> <p>4 地域との連携を密にし、様々な行事を通してコミュニケーション能力、社会力の育成に努める。</p>
------	--

到達度	A 達成(8割以上)
	B 概ね達成(6割~7割)
	C やや不十分(4割~5割)
	D 不十分(3割以下)

自己評価					
番号	評価項目	具体的方策	目標の達成状況、達成に向けた取り組み状況と分析	達成度	成果と課題 次年度に向けた改善策
1	授業規律を重んじ、授業研究に努め、総合的な指導力の一層の充実を図る。	基礎基本の定着を重視し、「わかる授業、楽しい授業、考える力を養う授業」の実践を図り、自己実現を達成できる学習指導を展開させる。	授業評価アンケートや学校評価アンケート結果から、各教科の先生方の創意工夫により、基礎基本の定着を重視した「わかる授業、楽しい授業、考える力を養う授業」の実践がなされていたと評価できる	B	生徒理解のための研修と授業研究
2	学校設定教科『ベーシック』を本校の教育に根付かせ、キャリア教育を実践していく。	学校設定教科『ベーシック』がどこおりに運用できるよう検討委員会とも連携をとり、適宜修正と改善を図りながら進めていく。	教材開発・課題設定が最大の課題。検討委員会に全面的に委ねたが、固定化したメンバーだけでなく、職員研修会などを通し、多くの意見を採り上げて課題設定や教材開発を進めたい	B	共通理解を図るための職員研修会の開催
3	『朝の読書』をとおり、心豊かな生徒育成に努める。	朝の読書習慣の確立させ、落ち着いた雰囲気での始業をむかえ、静寂を集中の時間を確保する。また、活字を読む能力の伸長、学力の向上、そして豊かな心と良好な人間関係の醸成を図る。	『朝の読書』通年実施2年目を迎え、職員・生徒ともに習慣が確立してきた。特に3学年では通年安定して落ち着いた取組状況であり、SHRや1時間目の授業にスムーズにはいることができた。	B	・継続的な朝読書の呼びかけ ・基礎基本の学力定着を目的とした朝学習の検討

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
○少人数のため生徒と先生の距離が近く、和気藹々だが、言葉遣いは気になるところ。	
○アンケート結果などを見て、部活動への取り組みが気になる。部員不足により活動が低下することは寂しい。	
○生徒の悩み、相談に苦労されている。部活動の統廃合も検討しているようだが、数値(人数)だけでは判断しないでほしい。	
○挨拶がよい。改善すべき点もあるが、概ね満足できる。授業に向かう姿勢や取り組みは悪くない。生徒の満足度が高い点は評価できる。	

4	保護者や地域との連携を密にし、「在ってよかった」学校づくりに尽力する。	地域に開かれた学校として地域自治体・福祉施設・学校等とのより良いボランティア活動の実践など、交流活動を積極的に行う。	3年生の「芸術探究」の授業でのくしびき保育園との交流や、音楽部と図書委員会による西小学校での歌と読み聞かせの会の活動などが認められ、鶴岡市民憲章を受章するなど、高い評価を得ている。	A	地域内にある福祉施設で行う学年単位での奉仕活動の実施
5	生活目標実現に向けて、「時間の厳守」、「挨拶の励行」、「端正な服装」を指導する	「遅刻をしない」意識を根付かせ、累積指導については学年と連携をとり、迅速に指導する。	登校時間に関しては全体的には意識してきている状況が見えるが、特定の生徒が自己の都合で遅刻したりするケースが目立った。現在実施している累積による指導にマッチしないケースも増えた。	C	・より効果の上がる遅刻防止活動の模索 ・生徒会や委員会による呼びかけ
6	生徒にとって学校生活が安全・安心であるよう環境を整える。	問題行動の特別指導に対しては、行為について反省を深めると共に、その後の学校生活を改善。向上できるよう家庭や学年と連携して指導する。	特別指導が計画通りに進行しないケースや、指導後の向上が見られない生徒もおり苦労した。中には複数回指導を受けたケースもあり、次年度の課題として指導したい。	C	特別指導生徒に対する効果的な指導内容の工夫
7	交通安全の意識高揚に努め、事故防止の徹底を図る。	安全な自転車走行、適切な通学マナーを身につけさせるために、学年及び委員会と連携して街頭指導を実施する。	交通安全委員ほぼ全員が意欲的に街頭指導や自転車点検に参加し通学マナーの徹底に協力してくれた。交通ルールに付いて理解を深めることができた。	B	無施錠自転車の点検とステッカーの確実な貼付の徹底
8	生徒の自主的活動を促し、活気ある山添高校集団を目指す。	生徒会執行部を中心に全員参加の活気ある学校行事を模索し展開させる。	3年生主体の生徒総会(4月、10月)、前期スポーツ大会、学校祭は学校全体として動くことができ、成就感を味わうことができた。新執行部も精力的に取り組む、スムーズな運営ができた。	A	生徒課内での役割分担と執行部生徒への「生徒会を運営する」という意識の定着
9	進路目標を早期に確立させ、めざす進路を実現するよう個に応じた支援をする。	各学年とも年度当初の計画に基づいて進路ガイダンスや企業・学校見学、社会人による進路講話を実施し自分の将来の進路について考える。	3年生の進路実現に向けて今年度から面接指導の抜本的な見直しをして、年度当初から段階的・継続的に取り組むことができた。	B	面接指導に際しては事前の計画・実践・事後の振り返りをしっかりと行い、学習の積み重ねを意識させる。
10	「聞く力」「話す力」「書く力」を養い、自己表現力を高める。	講話の際にメモを取りながら「聞く」習慣づけ、セレクト作文への取組による「書く力」、職場体験発表会や1分間スピーチによる「話す力」を育成する。	各学年ごとに工夫を凝らし実践できた。3年生の模擬面接指導においても講評や指導内容を聞き書きするなど効果が見られた。	B	セレクト作文の内容を発表する機会を工夫するなど、作文を書くモチベーションをあげる方法の検討。

○地域を大切にしていることについては他校と比べても評価されることである。ベーシックの導入に関しては関心を持っているし高く評価したい。

○中学校の生徒が山添高校に対してどのように思っているのかといった情報もあると良い。

○出前授業も実施しているので、授業の中で山添高校をPRしても良いのかもれない。卒業後の進路やベーシックについてももっとPRすべきだ。

○学校同士の交流、例えば部活動と一緒にやるとかによって生徒同士が交流できる機会も効果的ではないか。

○黒川能だけでなく地域にある伝統芸能についての学習も入れてもらいたい。後継者不足に大きな力となる。

○障がい者に対して手厚く対応している事実の理解に期待している。

○小学生にとってはどの高校も良いお兄さん・お姉さんとしてみている。生徒から発信されるものの効果が大きいと思う。

自己評価及び学校関係者評価の改善点 昨年度に引き続き、具体的な数値目標を掲げたわけではないが、学校評議員や学校関係者評価委員の方々からは、本校の教育目標や重点目標への取り組みを理解して頂き、概ね良い評価をいただいた。学校評価アンケートの集計結果をもとに、学校の取り組みの細部に関するアドバイスもいただくことができ、次年度の取り組みに活かして参りたい。